

「林業を軸とした地域活性化と 天龍村での暮らし」

長野県天龍村地域おこし協力隊
於 保 樹 氏



【事業概要】

SENA では「三遠南信地域おこし協力隊等のネットワーク化支援」事業の一環「地域おこし協力隊へのインタビュー」として、林業に関係した地域振興に取り組まれている、長野県天龍村地域おこし協力隊の於保 樹（おほ たつき）さんにお話を伺いました。

1. 天龍村と出会い、地域おこし協力を目指すまで

ー 自己紹介をお願いします。

生まれは東京ですが、幼稚園の時に神奈川県藤沢市へ転居し、高校を卒業するまで藤沢市で暮らしていました。信州大学農学部（伊那キャンパス）への進学を機に、長野県へ転居しました。出身の藤沢市は海に面していますが、私は潮の香りが得意ではなくて…体力に自信があり登山にも興味があったので、長野県の大学を志望しました。大学進学前に林業の現場を見せてもらうこともありましたが、進学するまで農業や林業にはほとんど興味はありませんでした。

大学での勉強や趣味の登山を通して、林業や現場で働くことに興味を持つようになりました。天龍村を訪れる前に、別の市町村で現場の様子を見せてもらうこともありましたが、天龍村は名前も聞いてことがありませんでした。実際に足を運んだのは、大学2年生の2月、同級生から「天龍村で林業に興味のある人を探している人がいる」と聞いたのがきっかけです。当時、その同級生は、天龍村の地域おこし協力隊の方が企画したお茶摘みツアーに参加していて、「友だちで林業に興味がある女の子はいないか」と声をかけられたそうです。林業女子という言葉も流行っていましたが、女性の友だちにはことごとく断られてしまったようで、私が誘われました（笑）

私はけっこうフィーリングを大切にするタイプで、すぐに天龍村の雰囲気惹かれ、最初は2週間に1回くらい訪問していましたが、段々と1週間に1回になり、気づけば週の半分を天龍村で過ごすようになっていました。卒論期も大学そっこのけで天龍村に通い、当時は週末に天龍村に来て、水曜日にある研究室のゼミで大学に戻る、という生活でした。今も一緒に仕事をしている方と、天龍村に通うようになってすぐ知り合い、しばらくはその方のお家に泊めてもらっていました。大学4年生の頃に、縁あって別の方から家もお借りすることができて、今もその家で暮らしています。

ー 天龍村へ通われている間、どんなことをされてきましたか。

林業はもちろん、それ以外にも農業など時期に応じた仕事をしていました。最初、大学2年生の2月に初めて天龍村を訪れた頃は、原木・菌床しいたけの作業を手伝いましたし、草刈りや干し柿作り、水路の見回り、山菜採集など、春夏秋冬とにかく自分のやれることをやっている、という感じでした。最初は見学が多かったのですが、少しずつ山の仕事も手伝うようになりました。大学3年生のお盆には初めて地域のお祭りに参加し、今も毎年欠かさず参加しています。

ー 大学を卒業してすぐ、地域おこし協力隊に着任されたのでしょうか。

林業で生計を立てていきたいという思いはありましたが、いきなりは難しいということもわかっていて、3～5年で退職して天龍村に戻ることも伝えたくて採用してくれる会社もありました。ただ、時間も限られているし、自分が大学時代多くの時間を過ごした天龍村で生きる、身を置くことが重要と考え、地域おこし協力隊の応募にいたりしました。

2. 地域おこし協力隊としての業務内容

ー 今はどんな活動をされていますか。

「林業を元にした地域活性化」が私の活動テーマです。大学生の頃から仕事が大きく変わったわけではないですが、少しでも技術を習得するために山に入っています。他に田んぼやしいたけの栽培も行っています。ちょうど今は、木の伐採の行う時期で、今日も午前中は山に行っていました。

ー 伐採作業は冬に行うのですか。

伐採は、気温が下がり、木が根から水分をあげなくなるお盆過ぎから行うのが良いと言われています。水を多く含んでいると、カビや虫の問題が出てしまうので。ちょうど農閑期にあたりますね。向方地区の協議会で薪を出荷しているので、伐採した木材はすぐに薪にして周辺市町村のホームセンターなどに卸しています。

伐採した木材を薪として販売するなど、収益が出る

作業であれば、そこから経費や日当が支払われるのですが、私たちはできる限り山主（山の持ち主）にお返ししたいと思っています。伐採以外の下草刈りなど整備作業には、森林組合の補助金を利用したりしますが、山の整備に係る経費を、山主が全額負担するのは難しいのが現状です。木が売れなければ私たちが日当をいただくこともできません。それくらいシビアな現状です。昔なら2倍3倍の高い値段で売れましたが、今は山主にお金をお返しすることができるかどうか、という時代になっています。

林業の他に、自分で育てたお米を和知野川キャンプ場（天龍村）へ出荷したり、しいたけは天龍村のおきよめの湯に併設しているレストランに出荷したりしています。副業的に農作物の出荷もしているんです。もちろん、育てたお米を自分でも食べていますが、本当においしいですよ。

ー 協力隊の業務で、やりがいや悔しかったことなどはあれば教えてください。

例えば、うまく伐採ができればうれしいし、失敗したら畜生と思います。しいたけも仕込みが大変ですが、買ってくれたらうれしいなと思います。1つに絞ることはできませんが、うれしい瞬間も、悔しい、つらい瞬間も、紙一重のようにあります。私は特に、仕事と生活の区別がない業務をしているので、日々の暮らしの中で、良い日と悪い日があるのと同じような感覚です。

～ ちょっと寄り道… ～

ー 少し脱線になりますが、於保さんのご趣味を伺います。

大学生の頃は登山が趣味で、長野県内の色々な山へ行きましたが、今は仕事場が山の中なので、登山からは足が遠ざかっています。私はあまり物欲や旅行に行きたいと思うことも少ないですが、とにかく食べることが大好きです！

長野県にきて、山菜のおいしさを知りました。今年も、もう、ふきのとうを食べましたし、一番好きなタラの芽が早く採れるようにならないかと心待ちにしています。他にも、栃の実を集めて作る栃餅や、自分で作る干し柿やお米もおいしいです。手間のかかる食べ物もありますが、その分おいしさも格別です。早くタラの芽でないかな（笑）

3. 地域おこし協力隊卒業後の展望について

ー 協力隊卒業後について教えてください。

来年の3月で3年の任期が終了します。任期終了後も、引き続き天龍村に住み続け、林業に関わる会社を立ち上げるつもりです。まずは3～4年、仕事の基盤づくりを頑張ります。

今後のために資格取得もしています。自動車の中型免許を取得し、大型免許の取得も検討しています。協力隊の任期中に、重機など取れる資格はなるべく取っておきたいと思っています。

私が天龍村を訪れるきっかけになった大学の同級生

も、天龍村に移住してくれました。ちょうど近くに住んでいて、今も仲良くしています。また、今年の4月に大学を卒業して協力隊に着任する方もいますし、天龍村に若い人が少しずつ増えています。

自分は向方地区で活動しているので、他の地域のことを詳しくは知りませんが、天龍村には移住者を受け入れてくれる雰囲気があると思います。野菜を物々交換したり、地域のみなさんの関係性も良いと思います。

ただ、課題を挙げるとすると、移住者が暮らす家が見つかりにくい、というのはあります。村内に空き家はありますが、お盆や正月には戻ってくるからお借りできなかったり、知らない人に貸すのはちょっと…という方もいて、移住する上で基盤となる住居が見つかりにくいと感じています。

ー ご自身でもお話されていましたが、林業で生計を立てていくのは厳しい、という現状もあるかと思えます。そういったことに対する不安はありますか。

めちゃくちゃあります。めちゃくちゃありますが、実際に今も天龍村で暮らしている皆さんがいます。なるようになる、どうにかなる。仕事はどうにかすることはできるから、死ぬことはない、と考えるようにしています。もちろん不安もありますが、中途半端にやっていたら、何もできません。まずは自分のやれることを全力でやって、それで無理なら自分の技量が足りなかったということですが、挑戦せずに諦めてしまうのは、面白くないなと思います。

自分が協力隊に着任する当初から、自分がこの場所で仕事をして生活ができれば、誰だってできるんじゃないか、これ（移住できる）んじゃないか、と証明したいという思いがあります。確かに、周りには若い人が求めるような遊ぶ場所はないかもしれないし、交通の便が悪いと感じる人もいるかもしれません。でも、山菜を食べるのを心待ちにするように、他にはない楽しみもあります。そういう、ここにあるものを楽しむ、自分で作ったものを食べて、生活をしていく、ということをご皆さんに知ってもらいたいです。

4. 民俗芸能の保存継承について

SENAでは、民俗芸能の保存継承の取組について調査を行っています。保存継承を考えるとともに、民俗芸能の披露の場として、昨年、浜松市で「三遠南信民俗芸能シンポジウム」が開催されました。於保さんも「お潔め祭保存会」の一員として参加していただきました。

ー 大学生で天龍村を訪れた当初からお祭り参加されているとのことでしたが、現在どのような活動をされているのでしょうか。

私がお祭りにかかわるようになって4年目です。私の後に新しく参加するようになった人はいません。私が一番新人です。地区の皆さんは高齢の方も多く、私が若手というのもあり、練習日程の調整や声掛け、指導者への練習の依頼など、事務局的な役割をしていま

す。私がここまでやっていいのか…とも思いますが、去年は本番の配役を任せてもらいました。本番も舞手（縁者）として参加していますが、まだまだ経験が浅く、勉強している途中です。

－ 向方のお潔め祭りは、地区以外に村外や県外の方も参加されていると伺いました。

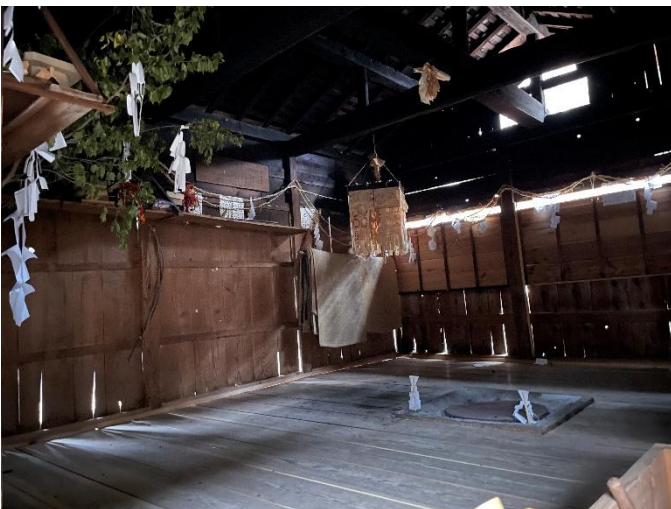
はい、そうです。10～14年程前から、地区外の参加者を受け入れるようになりました。天龍村で実施している関係人口を作る取組の中で、お祭りに興味がある方に声をかけたりしています。東京や愛知、県内の他の市町村などからも参加者が来て、練習を重ね、本番を迎えます。また、コロナの時期に女性の参加も解禁されました。男性と比較して、女性の舞はきれいだという声もあり、今では女性の舞手の方が多くなっています。

－ もしかして、私も参加できますか…？

もちろんです。お祭りに興味がある、舞に参加してみたいという気持ちがあれば、基本的にどなたでも受け入れています。

先ほども言ったように、私もまだまだ新人です。地区の指導者の方も高齢化しており、数えられるほどです。天龍村に住み続けている限りは、民俗芸能を続けていくつもりですが、継承していかなければいけないというプレッシャーもあります。

お祭りは神事に連なる一連の行事の1つです。今はわからないことばかりですが、神事についても理解を深めるとともに、お祭りについてももっと知りたいと思います。



(お潔め祭りで使用される、天照皇大神社の舞台)

5. 地域おこし協力隊等のネットワーク化について

－ 於保さんご自身は、他の協力隊の方と交流はありますか。

自分の業務に関係する方と、少しあります。狩猟やジビエ関係の方です。協力隊に着任してすぐに、全国の新人協力隊が集まる初任者研修会もありましたし、南信州では定期的に協力隊が集まる場もあります。

ただ、協力隊同士で協力して業務をしているという

人はあまり聞いたことはありません。私自身も山の関係で繋がりを持てればと思っていますが、場所も業務も様々なので、あまり進んでいないのが現状です。今後は、自分の業務に関係する方と繋がりを持っていけたら面白いなと思っています。

－ ネットワーク化事業は協力隊の皆さんのお力になれるでしょうか。

相性があえば、良い制度だと思います。私が初任者研修に行ったときは、集まっている人の地域や業務、年齢も様々であり話ができませんでした。私も自分の業務に自信を持ってやっているの、同じような熱量で話ができる人に出会えるといいなと思います。

－ 例えば、三遠南信地域の協力隊の方の業務をまとめ、プラットフォームを作る取組はどうでしょうか。

自分達の業務を掲載し、その中から近い業務や興味がある分野の方とマッチングできるのは面白いと思います。自分も他の協力隊の方の SNS を見て、面白いことをやっている人がいるなと思う時もあるので、そういった人たちと実際に会って話をしてみたいと思います。そういうネットワークなら負担にならないし、良いと思います。

6. 最後に

－ 今回の記事を読んでいる皆さんに、一言お願いします。

ぜひ、天龍村においでください！！

◇ 天龍村について

- ・総人口：971人（R 8. 1. 1 現在）
- ・長野県の南端で、愛知・静岡両県に隣接しています。総面積 109.44 km²のうち、93%起伏の激しい林野となっており、村のほぼ中央に天竜川が流れています。
- ・緯度が 35 度 16 分 23 秒で、これは湘南海岸とほぼ同じです。標高も 280m～とそれほど高くなく、長野県で最も温暖な地として「信州に春をつげる村」とも言われています。

- ・村鳥の「ブッポウソウ」は長野県の天然記念物に指定されており、夏鳥として毎年5月初旬に天龍村に渡来します。村では毎年巣箱を設置し、観察記録を発信しています。

(天龍村 HP <https://www.vill-tenryu.jp/bupouseu/>)

- ・天龍村の特産品で、村の柚子を使用してつくられる「柚餅子（ゆべし）」は、高齢化、過疎化の影響で、2018年3月に生産者組合が解散してしまいました。しかし、現在は、天龍村の地域おこし協力隊 OB、OG らでつくる NPO 法人「ツメモガキ」が生産を再開し、継承に取り組んでいます。令和7年度には、文化庁の食文化「100年フード」に認定されました。